

「省エネ市民会議」					
会議年月日	25年2月8日	時間	13:30 ~ 16:00	場所	流山市生涯学習センター(3F)
出席者	平手、春田(記)、突田、馬渡、難波、新田、板倉、新美、高橋 (ホワイトボードに向かって時計回り順に記載、敬称略)				
議 題					
2月度の省エネ市民会議を開催した。					
1、我家の光熱費について(平手講師)					
・「柏市住まいの安心リフォーム講座」(2月16日)のリハーサルを兼ねる講演となった。					
・平成19年~24年の「電気」「ガス」「水道」の消費量を示し何故、節減できたかを説明した。					
・電気、ガスの削減については説得力があったが、水道についてはライフスタイルによる影響が大きそう。					
					
2、地球温暖化対策地方公共団体実行計画について(春田講師)					
・平成20年に温対法が改正され地方公共団体について「区域施策」の策定が義務化された。					
・流山市はそれを受けて「ストップ温暖化！ながれやま20⇒20プラン」が平成22年3月に策定された。					
・環境省のガイドラインが下記の理由で改定される。(現段階はたたき台ベース)					
a: 京都議定書の後続となる2013年以降の計画(政権交代でペンデング)を踏まえ修正する。					
b: 地域づくりや、新たな制度の導入などで項目を追加する。					
c: 東日本大震災、原発事故など状況変化を踏まえ修正する。					
d: 2050年における持続可能な地域づくりの為に、防災や健康、インフラの整備が重要との観点を追加する					
e: 目標設定で総量目標を前提とするが、地域特性に応じた目標(例えば省エネ機器の導入など)も可。					
f: 地球温暖化への適応策(被害の防止・軽減、温暖化を活用...)を施策項目に追加する。					
・環境省が作成した「なぜ今、温暖化対策か?」「環境省の取組み」「都市低炭素化法」について説明。					
* 流山市「ストップ温暖化！ながれやま20⇒20プラン」の詳細説明を求める意見があった。(別途検討)					
3. その他;					
・市民太陽光発電所について提案があった(板倉)					
・板倉正弘氏(コマツ会長)の「地球温暖化問題は化石燃料がなくなれば自動消滅する」について(別紙)					
次回予定: 平成25年3月8日(金)13:30~15:30 場所: 未定(市生涯学習センター又は江戸川大学)					
内容: 節電努力が見えるまちづくり(仮題) 江戸川大学教授 伊藤勝氏 以上					

板倉正弘氏（コマツ会長）の「地球温暖化問題は化石燃料がなくなれば自動消滅する」に疑問があるとの意見が省エネ市民会議で出ました。

「化石燃料がなくなれば地球は終わり…」との感想も。

いずれにせよ「化石燃料」と「再生可能エネルギー」のバランスをとりながら歩み始める21世紀こそが人類にとって重大な過渡期であることは疑いがないとの結論に達しました。

*省エネ市民会議は、個人の意見を大切にしながら皆でワイワイガヤガヤ議論しています。（春田）

経済有識者 新春座談会

3年3カ月ぶりの自公政権誕生で幕を閉じた2012年。新政権は年明けから、大型経済対策や日銀との連携強化でデフレ脱却に背水の陣を敷く。日本経済は閉塞感（ひきまき）を打ち破り、成長を取り戻せるのか。海外事業拡大の先頭を走るコマツ会長の坂根正弘さん、多くの企業再生に関わる経営共創基盤代表取締役の富山和彦さん、女性の視点を生かして企業経営に関わるバンダイ社外取締役の松永真理さんに論じてもらった。（司会は松木健・毎日新聞東京本社経済部長、写真・山本晋）

2013.01.01 毎日

坂根 今の子供か孫の世代に確実に枯渇する化石燃料を、できるだけ長く使い続けるために省エネで節約しようというのが、国連の気候変動枠組み条約締約国会議（COP）の本質だ。地球温暖化問題は化石燃料がなくなれば自動解消する。日本は今、先進国で最も化石燃料を使いまくっている。そこを出発点に議論しないと。

福島事故の収束は最優先。

省エネや再生可能エネルギーにも全力を上げる。そこで節電できた分だけ原発を減らすのか、それとも化石燃料を減らすのか。そう考えるのが筋道だ。まず化石燃料の割合を福島事故前の6割強まで戻す工程表を議論すべきだ。